

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成27年2月15日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000172		
法人名	社会福祉法人ライフサポート協会		
事業所名	大領地域の家 グループホームであい		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護及び介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市住吉区大領5-6-2		
自己評価作成日	2015年12月20日	評価結果市町村受理日	2016年3月9日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 評価機関 あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	2016年1月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームであいでは、一人ひとりに沿った生活場面での環境づくりを暮らしの中で行いながら、「継続ある暮らし」の実現・「本人さんの想いを大切に暮らしへ繋げる」の実現を行っています。  
また同じ敷地内にある、小規模多機能型居宅介護であい・障がい通所一ぶ班と協働による企画立案などで、住みよい大領地域の家であいを目指している。

設立5年目を迎えるにあたり、地域住民の方々と共に協働してつくりあげる企画などでは、年々ご参加くださる方々も増加傾向にあり、であいの事を一つひとつ知って頂く機会となっている。

- ・共に暮らす⇒場を感じ思いを感じ生活場面を大切に時を共有する。
- ・認知症になっても地域の中で生きる。
- ・暮らしの中における生活の環境を共につくる。
- ・人と人の繋がりをつくる架け橋となる。
- ・考えて想像して実践する。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームであいは、グループホームや小規模多機能型居宅介護事業所、障がい通所・障がい共同生活援助事業所からなる「大領地域の家であい」という複合施設の2階にある。法人理念である「すべての人が尊敬される社会の実現」を目指して職員は日々利用者の支援に努めている。事業所が自宅の延長であるという意識の下、朝食メニュー、食事時間、入浴時間等できる限り利用者の希望に沿って提供できるように努めている。事業所の1室を地域交流の場として無料で地域の人々に開放し、PTAの集まり、赤ちゃん連れのお母さんの会合などに利用されている。また、週に1度、障がい者施設主催で喫茶店を開いており地域の人たちも参加し地域交流の場となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○倫理綱領及び実践行動指針に基づいて再周知を行っている。また法人理念「すべての人が尊敬される社会の実現」を日々の利用者支援へと繋げていっている。	法人理念である「すべての人が尊敬される社会の実現」を念頭に日々支援に努めている。事業所独自の理念はないが、今年のスローガンは「ココロで手を合わせ感謝の想いを言葉にそして形に」を掲げている。理念は玄関に掲示し、新人研修でも周知を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○日々の買い物、町会清掃などの場面で地域の方との自然な交流を深め、地域行事への参加、地域住民と一緒に作りあげる企画立案を行っている。 今年度のであい感謝祭においては、地域の方々もご利用者も主役である企画となり、地域からも沢山の方々をご参加くださった。	町会に入会しており、町内清掃・盆踊り・ラジオ体操などに利用者、職員が参加している。年に1回の「であい感謝祭」は地域の老人会、婦人会、ボランティア等が共に企画し、高校生も含め100名近い参加がある。事業所主催の七夕まつりの流しそうめんには多くの子供たちが参加している。また、職員がボランティアで週に1回小学校へ絵本の読み聞かせに行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○認知症になっても、住み慣れた場で生活出来る事を日々の関わりを通し、地域の方に見て頂く事が一番の地域貢献であると考えている。また、様々な企画において地域住民と一緒に作りあげていく自然な形で交流出来る場を創出している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○利用者状況報告、事業所からの企画周知や町内会の行事確認及び事業所としての参画提案をさせて頂いている。その中で、地域への行事参加、地域と一緒に作りあげる思いで行事立案などサービス向上に努めている。高齢事業のみならず、同敷地内にある障がい通所る一ぶ班も交え、地域と施設一体となり行っている。	運営推進会議には町会長、老人会代表、利用者、利用者家族などが参加し、2か月に1回開催している。事業所の運営状況や活動報告を行ない、事業所や町会が各々主催の行事についてのお知らせや意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	○制度のこと等、分からないことがあれば管轄である大阪市に連絡し、解決に向けて確認している。又、地域包括支援センターへの相談、連携の強化を行っている。	管理者は制度等に関して分からないことなどを市役所に問い合わせたり、同じ法人にある地域包括支援センターに相談するなど連携を強めている。市のグループホーム連絡会にも属している。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>○法人の研修等を通してどういったことが身体拘束にあたるのか意識している。</p> <p>自宅と同じで、玄関は防犯の為夜間のみ施錠している。</p>	<p>年1回法人内で開催する身体拘束やスピーチロック等の研修に全職員が参加している。気になる言葉使いについては気がついたら、その場で管理者や職員同士で注意するようにしている。外出を希望する利用者には職員が付き添って一緒に出掛けている。玄関は防犯上夜8時から朝9時までは施錠している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>○法人内においては「権利擁護」、部門内研修においては「プライバシー保護」を通して学びを深めている。日頃の支援において、虐待にあたることは行われていないか常に意識している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>○上記7同様、法人内においては「権利擁護」、部門内研修においては「プライバシー保護」を通して学びを深めている。成年後見制度を利用されている方がおられるが、簡単な制度概要を理解しているに留まっている。全体で学ぶ機会を設けていく必要がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>○契約の際はできる限り分かりやすいように説明することを心掛け、可能な限り時間をかけて説明するように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>○利用者とは日々の関わりにおいて、ご家族とは面会時や日々の電話連絡にて意見交換させて頂いている。また、年に一回利用者、ご家族へアンケートを実施し運営に反映させている。</p>	<p>利用者の家族とは面会時や電話連絡時に意見を聴取するように努めている。年に1回、利用者、家族に品質向上アンケートを実施し、その意見を運営に反映し希望に沿うようにしている。これまでに通院についてや食事の献立についての意見があり、改善されている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>○年に1回行われている、法人内での意向調査や事業所内でのアンケートを実施し、意見を抽出するだけでなく、あがった意見に返していくよう取り組んでいる。</p>	<p>年1回職員の意向調査やアンケート調査を行っている。事業所内での異動希望や人間関係、給料、配置人員についての意見などがあれば、法人から職員に返答するようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>○人事考課を通して、日々の仕事の成果や実績を振り返り評価している。その中で課題を明確化することも忘れず、次期課題への取り組みを命じている。この人事考課の結果が、賞与にも反映されるようになっていくと共に、毎年給料の更新を行っている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>○年間の個別研修計画作成・人事考課を通して、職員それぞれの課題を明確化し、課題達成への取り組みに繋げている。又今年度より、小規模多機能型居宅介護であい合同による、グループディスカッション形式の実践に即した研修を行い、意見交換の場を増やしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>○外部研修を受講して出会った方々とのネットワーク構築に努めている。(研修や勉強会への積極的参加や日々の情報交換。住吉区北西部のグループホーム連絡会にも参加している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>○本人がしたい事、望む生活を聞き取りプランを作成するためにも、インテーク段階から話易い雰囲気作り、信頼関係構築の一步を大切に支援している。利用開始となってからは、全職員が歓迎する気持ちを大切に関わらせて頂いている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>○ご家族の不安、分からない事は様々な場面において時間をかけ聞かせて頂いている。「いつでも、頼っていいんだ」と感じて頂ける関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>○事業所だけで抱え込むのではなく、ご家族の関わり、地域社会資源の活用も考え一緒になってプランを作成している。利用者本人のニーズを生活場面を共にし、実践研修や会議などで共有し、暮らしに繋げる様に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>○利用者を通して地域を知り、利用者を通して生活の知恵を学ぶ姿勢を職員間で共有している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>○本人と家族さんとの繋がりを切らさないように、事業所が全てを対応しようとせず、「一人じゃないよ！」本人さんに関わる方々と「共に」の支援実践を行っている。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>○今までの係りつけ医や美容室などは出来る限り継続できるように取り組んでいる。入居の際に、馴染みの私物をたくさん持ってきていただくように伝えている。アセスメントで本人のこれまで歩いてこられた人生を知る。家族や知人への連絡等、関係性を断ち切ることがないよう努めている。</p>	<p>入所前のかかりつけ医や美容院などとのつながりを継続できるように努めている。月に1回墓参りに行く人や月に1～2回自宅へ帰る人など利用者の希望に沿うように努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>○利用者の入れ替わり等もあり、利用者間の関係性の構築は日々意識しているが、まだまだ認め合いの場が少なく、生活場面での繋がり暮らしの環境づくりの強化を意識している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>○利用が終了した利用者さんに関しては、必要に応じた対応を続けている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>○本人の望む暮らし、本人がしたい事をまず考え、プランを作成している。そのために、本人の声、ご家族の声を十分に聴きとる雰囲気作りに努めている。</p>	<p>本人の意向や思いは日々の様子や会話等から把握するように努めている、家族には面会時や電話連絡時に聞き取るように努めている。把握した内容は日誌に記入し全職員が共有できるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>○本人、ご家族の方から声を頂き左記の把握に努めている。また、その声をもとにプランを作成している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>○一人ひとりが生活場面で出来ることを共にみつけ、一人ひとりの暮らしにおける思いを大切に関係づくりに努めている。</p>		

<p>26 10</p> <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書をライフサポートワークに移行した。モニタリングに際して、現場職員との共有、本人の望む思い、家族の思いを計画書に繋げている。</p>	<p>以前は利用者担当制をとっていたが、全職員がすべての利用者を見る方針に変更している。介護計画書を「私の暮らしまとめノート」にし、利用者一人ひとりの一日24時間の生活の流れを利用者や家族に入所前の事を聞き、職員同士が相談しながら作成し、全職員が共有している。定期的に、また更新時や変化のあったときには現状に即した見直しをしている。</p>	
<p>27</p> <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>○日々の変化や気付きは経過記録に残し、重要な内容は日誌に反映させて、情報共有に努めている。※変更があった内容や特記事項は別紙に記載し共有に努めている。</p>		
<p>28</p> <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>○ニーズへの対応は努めているが、事業所内で完結していることも多いので、サービスの多機能化ということに関しては、強化が必要。</p>		
<p>29</p> <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>○本人と地域資源、馴染みの関係は断ち切らない支援をしているが、新たな地域資源の開発が出来ていない。更に、地域と利用者本人を結びつけるために、一人一人の利用者の地域を知る必要がある。</p>		
<p>30 11</p> <p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>○出来る限り一人一人の馴染みのかかりつけ医にて、家人対応或いは事業所対応にて連携を図っている。家人対応の場合でも、必ず受診情報を確認させて頂いており、必要に応じて医療機関に連絡・調整を図っている。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。家族が対応した場合は受診結果を電話で聞き取り「であい日誌」に記録し、職員間で情報を共有している。家族が対応できない場合は職員が代行している。また必要に応じて協力医による訪問診療を受け入れている。</p>	
<p>31</p> <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>○非常勤看護師のため、毎日報告する事は出来ないが、利用者の状態変化はその都度報告し、不定期ながら看護師を交えたケースカンファレンスの実施。また、看護師からも気づきの報告がある。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	○入院された場合、定期的にケース会議を開催し早期退院を促している。ケアマネジャーを中心に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○昨年からの課題であった看取りケアに関する指針は作成しているが、終末期に関する意向は確認できていない。	利用開始時に本人及び家族と、重度化した場合や終末期のあり方について話し合っている。看取りに関する指針を作成している。主治医の診断で看取り状態に近づくと、家族と「看取り介護の同意書」を交わして事業所全体で看取りの体制に入り支援している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○急変時の対応に関して簡易的な書面や応急処置の研修等はあるものの、実際の急変時は、その都度の判断で実践している。現在指示系統の見直しを行っている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年に2回の避難訓練、日中・夜間に1回ずつ実施しているが、昨年からの課題であった地域と協力した防災訓練は実施できていない。今年度は、夜間を想定した避難訓練及び法人一斉大規模災害訓練を行う予定。	避難訓練は消防署の協力を得て年に2回（日中・夜間各1回）実施している。今年の3月に夜間を想定した避難訓練を実施予定である。平成28年度に法人一斉の大規模災害訓練を予定している。	運営推進会議などを活用し、地域と協力した防災訓練を実施するために、地域とどのような体制を築いていけばいいのかを話し合う機会を持ち、災害時の地域の協力体制作りを期待する。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○非常勤職員含め、全職員が言葉使いに気を配っている。声掛けが怠慢である職員には、その都度指導を行っている。また、原則同性介助を行い、排泄、入浴などの直接介助では一人、一人の個別の時間を大切に関わっている。言葉かけに関しては、馴染みの関係性と慣れ合いをはき違えているような場面もある。	法人の年間研修計画に基づいて、プライバシーの保護や接遇について研修を実施している。日常の職員の言葉使いについて、利用者の人格を損なうことのないように気を配っている。排泄・入浴などの介助は原則同性介助を実施している。個人記録は事務所内に鍵をかけて保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○利用開始のプラン作成では、本人がしたい事を中心にプランを作成。また、日々の関わりでは、献立作成、おやつ飲み物、日中の過ごし方を利用者と一緒に考えて実施。年間行事企画においても、利用者の声・想いを中心に立案している。生活の中では自己決定の連続だということ意識する。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>○その時の想いを大事にし、対応できることは早急に対応するようにしている。その中で、「今後その人がどういった暮らしを望んでいるのか」ということを考える視点を忘れないようにしている。具体的には行きたいところに行ける取り組み。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>○男性の方は日々のひげ剃り、女性の方も顔剃りや、こだわりの化粧品など、今までの暮らしが継続できるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の想いを拾い上げる努力をしている。それらをいかに日々のメニューへ繋げていくかを検討中である。食事とは？の意識研修を行い、食に対する環境づくりについての見直しを行っている。五感を言葉だけでなく生活の中で感じれる取り組みを共に行い、食べたい 食べてみよう 食べるを暮らしに繋げ実践している。</p>	<p>献立表は職員が作成しているが、利用者の希望があれば臨機応変に対応している。毎日利用者と一緒に食材を買いに出かけ、購入した食材は職員と利用者で調理・配膳・下膳を行っている。食事時間も利用者の生活リズムに合わせて幅を持たせている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>○手作りである事から、細かな栄養指導は出来ていない。カロリー制限がある方は、量の調整、嚥下困難な方はトロミをつける、刻みにする等の工夫のみである。栄養バランスに関しては、一日10品目の食材を摂取出来るように献立作成を行っている。水分に関しては、いつでも飲める環境作り、細かな声掛けを行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>○個別に口腔ケア用品を準備させて頂き、食事後は声掛けを行っている。介助を要する方以外は、声掛け、見守りで対応を行うが、定期的に現場でのモニタリングを行い、プランに繋がっている。訪問歯科での必要な治療や口腔ケアも行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>○尿意・便意のサインを見逃さないように日々の関わりの中から観察している。現在、オムツを使用している方はおられず、できる限りトイレでの排泄を目指している。</p>	<p>出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間についても一人ひとりのパターンを基に声掛けや誘導を行っている。</p>	



44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>○生活の中で可能な便秘予防、具体的には運動や飲水、食事などで対応し、個別では腹部マッサージや腹部の温め、ヨーグルトの購入などで対応している。又、主治医との情報連携を密に行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>○入浴時間、回数の希望の聞き取りを行い、可能な限り希望に沿った形で入浴支援を行っている。また、個浴にて1対1での入浴支援を原則とし、コミュニケーションを深める場と捉え関わっている。</p>	<p>入浴時間・回数の希望を聞き取り、入浴を楽しめるように、可能な限り一人ひとりに応じた入浴支援を実施している。入浴は同性介助による個浴である。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>○夜に気持ち良く眠れるように、日中における活動を心がけ、もし眠れないことがあっても、単に眠れないではなく、理由を考察して本人の想いに寄り添うようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>○利用者服薬情報を個別にファイリングし、服薬管理が必要な方は事業所にて管理、服薬確認をさせて頂いている。また、薬の内容が変更になった場合は、電話や面会時にご家族へ報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>○役割作りのために、個別に輝ける場面を創出している。主には食事準備や洗濯など暮らしの中での自然な関わりを目指している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>○日々の散歩及び買い物は、ほぼ毎日行っている。個別のニーズによっては自宅へ帰帰ったり、家族さんへ会いにいたりなどしている。また、遠出等の利用者の声に関しては、年間行事に反映し実施している。その際はご家族、ボランティアなど協力を必ず得て実施している。</p>	<p>日常的に散歩や買い物支援を行っている。また個別の希望により墓参り・帰宅・美容院・外食なども実施している。年2回（春・秋）、家族やボランティアの協力を得て希望者全員で遠足に出かけている。</p>	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>○個人での管理及び事業所で金銭管理をし、必要なものは一緒に買い物に行っている。利用者さんから「お金を使って何かをしたい」と思えるようなことを一緒に考えていきたい。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>○知人や、家族さんなど本人さんの希望に応じて連絡をとっている。携帯電話を使用して個人で連絡される方もおられる。手紙に関しては、行事の際などのお便りや年賀状等を送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>○毎日の清掃で清潔を保ち、生活の中の音を大切にしている。絵画など、季節感あるものを設置する事で四季折々を感じれるように工夫している。また、一人ひとりにとっての空間を大切にし、ソファの配慮や向きなどに配慮している。</p>	<p>居室やリビングのほかに、一人ひとりの居場所を共用部分に増やすように努めている。衝立代わりに和タンスを配置し、一人でも過ごせる空間づくりを試みている。またソファやテーブルを利用者の動線に合わせて配置するなど工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>○廊下にソファを置き、集団に疲れたときに独りになれるような人の目を気にしない自分の場所。ホッと出来る場づくりを利用者と共に作る取り組みを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>○馴染みの私物などを持ってきていただくようにはしている。特に馴染みの家具や家族写真アルバムなど。自分の物で溢れた環境での暮らしに配慮している。</p>	<p>居室内のベッドやカーテン以外は、家具など使い慣れたものや好みのもを持ち込んでいる。家族との写真や手作りの作品などを飾って、その人らしい居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>○一人ひとりの声、その時々々の想いに触れる事を大切にしている。例えば、何かが出来にくいとしても、それ全部が出来ないのではなく、関連する何かが出来にくいだけなのかもしれない。本人がどここのどの部分が出来にくいのか？表面上だけでなくしっかり向き合うを意識している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	●	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	●	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない